



[トップ](#) [暮らしの情報](#) [文化・スポーツ](#) [生涯学習・社会教育](#)

ひので映画大使最新版

[2015年12月28日]

第65回映画大使「杉原千畝 スギハラチウネ」

- ・ 期日 平成27年11月26日(木曜日) ※試写会にて開催
- ・ 場所 イオンシネマ日の出

作品紹介

第2次世界大戦時、ナチスに迫害されたユダヤ難民にビザを発給して救いの手を差し伸べ、「日本のシンドラー」とも呼ばれた外交官・杉原千畝の半生を『ブラック・レイン』などのハリウッド大作で助監督を担当し、『サイドウェイ』で映画監督デビューを果たしたチェリン・グラック監督が映画化。

主人公・杉原千畝を唐沢寿明が、千畝を常に支える美しき妻・幸子を小雪が担当した。加えて、小日向文世、塚本高史、濱田岳、モントリオール世界映画祭にて最優秀男優賞にも輝いた俳優・ボリス・シツ、『ワレサ連帯の男』でヒロインを演じたアグニエシュカ・グロホフスなどの日本・ポーランド映画界を代表する実力俳優陣が脇を固める。

終戦70年の節目の年に、日本政府の命令に背いてナチスに迫害されたユダヤ難民の命を救った杉原の、知られざる信念や信条を、国境を越えた超豪華キャスト、スタッフで描き出す。



(C) 2015「杉原千畝 スギハラチウネ」製作委員会

映画大使の「感動と感想」をお伝えします。

このコーナーは、映画を見た感想や感動を、ストーリーは伏せて「みなさん」に紹介するコーナーです。

映画大使の「第一声！」

- ☆ 感動しました！
- ☆ とても素晴らしい作品ですね！
- ☆ 若い方に観ていただきたい作品ですね！
- ☆ 千畝は凄い人ですね！



今回参加された、映画大使の皆さんです！

映画大使の「映画のツボ！」

Aさん

初め『ちうね』とは読めませんでした。

千畝が命の危険も顧みずユダヤ人を救った事は、素晴らしい事ですね。

千畝は、世界の動向がわかっていたので、戦争に負けた時は、誰よりも辛かったと思いました。

日本人の奥さんが明るかったのが、すくいでした。

Bさん

若い方に観ていただきたい作品ですね。

私は、戦争経験があるので、ユダヤ人の苦労がよくわかります。

千畝の生まれ故郷の岐阜県に、救ったユダヤ人のリストが残っているようですね。

Cさん

当時のユダヤ人は大変だったと思いましたね。

どのような状況におかれても、ユダヤ人を救った事は、すごい事だと思います。

Dさん

先日テレビで観た日本の歴史上の人物を取り上げたクイズ番組で、上位に入っていた千畝の映画が観られた事に感動しました。

千畝は頭が柔軟で堅物でなく、誰とも差別なくいろいろな人を受け入れて、凄い人だと思いましたね。奥さんも、穏やかな人で、千畝の考えに着いていける事が凄いと思いました。

感動しました。

Eさん

私は、唐沢寿明さんの大ファンなんです。

この作品を観て、今の難民問題の事を考えましたが、今の日本ならば難民を受け入れることができるのではないかと思いますね。

Fさん

汗と涙でぐちゃぐちゃになり、胸いっぱいになりましたね。

この作品を観て、国を取られた人の気持ちがよくわかりました。

本も読んでいたので、素晴らしい事をした人の映画が観られて私の願いがかなったと思いましたね。

私は、戦争を経験しています。孫には是非観せたいと思いましたね。

Gさん

私は、千畝がどのような人物か、知らずにこの作品を観ましたが、観られてよかったと思いました。

千畝はもちろん偉い人ですが、奥さんも偉いと思います。好きだったから付いて行けたのだらうと思いますが、私には出来ないと思いましたね。

唐沢さんの英語の発音が、聞きやすくよかったですね。

テレビで難民の報道を観ると、何か出来ないかな、と思います。

Hさん

感動して、泣いてしまいましたね。

『シンドラーのリスト』も話は知っていましたが、この作品は、細かく描かれていたので、勉強になりました。

今、テロの事件が起こっていますが、日本も他人事ではないと思います。やはり、戦争だけは嫌だと改めて思いましたね。

Iさん

戦争体験はありませんが、『シンドラーのリスト』を観ています、日本にも同じような事をした人がいると聞いた事がありますが、具体的な事も知らないで今回、この作品を観ました。必要以上にヒーローや英雄に描いていないで、普通の人が共感できる人間像になっていたと思います。

また、必要以上に悪役も登場せず、自然に観られてわかりやすかったですね。

機会があれば本も読んでみたいですね。

いい映画でした。

作品の内容(印象に残ったシーンなど)

・千畝も凄い人ですが、他の仲間の助けもあって、皆を動かしたのだとわかりましたね。

・千畝の子どももやさしかったので、親の背中を見て育っているのだなと思いましたね。

まとめ

この作品を映画化しようと考えたのは、太平洋戦争下のサイパン島で戦った陸軍大尉・大場栄の活躍を、実話をもとに描いた『太平洋の奇跡～フォックスと呼ばれた男』の制作チームであり、企画を立ち上げたのは、2012年頃で、終戦から70年の節目に当たる今年の公開に向けて、プロジェクトが動き始めたと聞いています。『シンドラーのリスト』はあまりにも有名で、多くの人が知っている話ですが、杉原千畝の話は、詳しく知らない人の方が多いと思います。

参加された映画大使の方からも話が出ましたが、この作品を観て『最近の小学生や中学生は、第2次世界大戦の事を学校で勉強をしていないのではないか?』という話が出て、日本の歴史において大きな転機になった事柄なので、若い世代の方に学んでほしいという事や、最近戦争経験をされた作家が亡くなってきている事などの戦争に関する事の話がされました。

この作品は、日本にもいる偉人を再発見する事はもとより、今の日本人が知らないといけない事実や、今現在の世界情勢などを考えるチャンスになる事から、終戦70周年の今年に観るのには、正に打って付けだと思います。

映画は是非、劇場の大スクリーンでご覧ください！

映画大使では、年代も性別も違う方達が、それぞれ意見を出し合いひとつの映画について話し合うという、日ごろできない経験をする事が出来ます。映画を観て自分がこう思っただけではなく、年齢や経験などの違う人の目線で観たことを聞くことにより、違った発見があるので、ひとつの映画が何倍にも広がって行きます。

今後も「ひので映画大使」にご期待ください！！

関連ページ

- ・ [これまでのひので映画大使](#)
- ・ [ひので映画大使のトップに戻る](#)

お問い合わせ

東京都 日の出町 文化スポーツ課 社会教育係
電話: 042-597-0511(内線541) ファクス: 042-597-6698
